

平成21年度 日本電気技術規格委員会
第2回 溶接専門部会 議事要旨

1. 日時:平成 21 年 12 月 3 日(木)13:30~16:10
2. 場所:財団法人発電設備技術検査協会 本部 E・F 会議室
3. 出席者(順不同、敬称略)

部会長:野本(東京大学名誉教授)

委員:三原(富山大学)、小溝(大阪大学)、小関(東京大学)、浴田(東京電力)、三輪田(中部電力)、堂ヶ原(関西電力)、森本(新日本製鐵)、安田(JFE スチール)、塚原(日本電気協会)、青木(IHI)、原田(東芝)、逢澤(日立製作所)、釜口(三菱重工業)、菅沢(火原協)、横野(日本非破壊検査協会)

説明者:尾形(溶接施工検討グループ幹事代理)

傍聴者:森崎(電事連)、佐川(中部電力)

事務局:吉田、高橋、井上

4. 配付資料

WS-21-2-1	平成 21 年度第 1 回溶接専門部会議事要旨
WS-21-2-2	委員名簿
WS-21-2-3	WS 書面投票結果と対応
WS-21-2-4	検討課題 WS09-02:溶接後熱処理の温度(P-11 材)
WS-21-2-5	検討課題 WS09-03:溶接後熱処理の方法の改正(規定温度に達しない場合)
WS-21-2-6	検討課題 WS09-06:適用出来る管の外径制限
WS-21-2-7	検討課題 WS07-03:手溶接士の技能試験事項・試験の方法・資格表示
WS-21-2-8	検討課題 WS03-07:局部 PWHT における加熱(均熱)温度範囲の見直し
WS-21-2-9	検討課題 WS08-03:溶接後熱処理の温度(P-6 材)
WS-21-2-10	検討課題 WS09-07:放射線透過試験方法への全面的な JIS の引用
WS-21-2-11	検討課題 WS09-08::放射線透過試験の判定基準の見直し
WS-21-2-参 1	検討課題 一覧表
WS-21-2-参 2	検討要望 一覧表
WS-21-2-参 3	RT 関連 JIS 本体(解説を除く)
番号無し	書面投票及び専門部会出席実績表

5. 議事概要

5-1 定足数の確認

本部会において、審議成立の定足数である 14 名を満たすことが確認された。
委員総数 21 名;出席 16 名、欠席 5 名

5-2 前回の溶接専門部会議事要旨の紹介(報告事項) [資料 WS-21-2-1]
前回議事要旨は既に承認されており、内容の確認を行った。

5-3 任期延長について

5-3-1 委員の任期延長について [資料 WS-21-2-2]

次の委員の委員委嘱期日が来年度の第 1 回専門部会開催予定日以前であることから、委員再任について審議がなされた。
再任の決議は部会長の判断により挙手により行われた。(当事者は 2 名単位で一時退席し、青木委員のみ単独で一時退席した。)

野本委員、三原委員、小溝委員、安田委員、小関委員、堂ヶ原委員、原田委員、光畑委員、横野委員、塚原委員、森本委員:賛同者 14 名(全員賛同) 再任承認
青木委員:賛同者 15 名(全員賛同) 再任承認

欠席した委員で、再任の意向を確認していない菅谷委員、小川委員、山下委員については、再任の意向を確認した後、書面投票で再任の決議を行うこととされた。

5-3-2 部会長の任期延長について

野本部会長の再任について、挙手により再任の決議が行われ、賛同 15 名で再任が承認された。(野本部会長は一時退席)

5-4 WS 書面投票結果と対応について(報告事項) [資料 WS-21-2-3]

事務局から平成 21 年度第 1 回溶接専門部会以降に実施した書面投票の結果とコメント等対応状況及び第 1 回溶接専門部会以前の書面投票結果と対応が報告された。

5-5 検討課題の書面投票移行のための審議について(審議事項) [資料 WS-21-2-4~7]

検討会幹事代理及び事務局から資料に基づいて説明があり、書面投票移行への採否に関する審議がなされた。

検討課題を書面投票にかける決議は、部会長の判断により挙手で行われた。

(1) 課題番号 WS09-02 「溶接後熱処理温度の改正(P-11A 及び P-11B)」

【概要】:別表第 21「溶接後熱処理における温度範囲及び溶接部の厚さに応じた保持時間」の(別表第 9 に掲げる P-11A 及び P-11B)で、温度範囲(595℃以上 680℃)を P-11A グループ 1 の温度範囲を(550℃以上 585℃以下)と P-11A グループ 2 と P-11B の温度範囲を(540℃以上 565℃以下)に改正する提案。

書面投票採否 投票数 16 賛同 16 名 書面投票に移行決議

(2) 課題番号 WS09-03 「溶接後熱処理の方法の改正(規定温度に達しない場合)」

【概要】:別表第 22「溶接後熱処理」の保持温度に「別表第 9 に掲げる P-1、P-3、P-9A 又は P-9B 材にあっては、」の文章を追記する提案。
間違った解釈を生じさせない為にも、規定対象を明確にすることは大切とのコメントがあった。
また、「規制強化に繋がるのでは」との質問に対して、「専門メカではない。」との回答があった

書面投票採否 投票数 16 賛同 16 名 書面投票に移行決議

(3) 課題番号 WS09-06 「適用できる管の外径制限」

【概要】:管台を取り付ける継手の溶接部で別図第 4(28)の管の外径の変更提案。
平成 21 年度第 1 回溶接専門部会で、「管肉厚 13mm 以下の応力解析、溶接性の観点からの見直し」のコメントに対応した案。
規制緩和の方向なので、書面投票では技術的な面を十分にチェック願いたいとのコメントがあった。

書面投票採否 投票数 16 賛同 16 名 書面投票に移行決議

(4) 課題番号 WS07-03 「手溶接士の技能試験事項・試験方法・資格」

【概要】:第 110 条、第 113 条、別表第 13、別表第 14、別表第 17 で、資格の表示及び作業範囲の見直しを行うと共に、別表第 13 に試験事項、別表第 14 に判定基準、別表第 17 に資格の表示を行う提案。

本案は、平成20年度の書面投票でのコメント対応で、技術的な変更を行ったことによる再提案である。
書面投票の対象となる箇所(着色部)以外についても、投票時、意見があれば出すようにとのコメントがあった。

書面投票採否 投票数 16 賛同 16 名 書面投票に移行決議

5-6 検討課題の検討結果について(審議事項) [資料 WS-21-2-8、9]

(1) 課題番号 WS03-07-1.2 「局部 PWHT における加熱(均熱)範囲の見直し」

【概要】: 局部 PWHT の均熱幅が、火技解釈、ASME、EN の各規格間で相違しており、改正の必要性を検討したものである。検討の結果、火技解釈の現行規定は、EN、ASME に整合する必要はないとの結論で、検討を終了する提案。

検討の終了についての投票採否 投票数 16 賛同 16 名 検討の終了決議

(2) 課題番号 WS08-03 「溶接後熱処理温度に見直し(P-6 材)」

【概要】: 母材区分 P-6 材の PWHT (溶接後熱処理) の温度が、ASME と相違しており改正の必要性について検討したものである。検討の結果、火技解釈の現行規定は、ASME に整合する必要はないとの結論で、検討を終了する提案。
図 1 の出典を「(社)日本溶接協会、2004」と記載しているが、より明確にしてはとのコメントに対して、ホームページのアドレスを記載するとの回答があった。

検討の終了についての投票採否 投票数 16 賛同 16 名 検討の終了決議

5-7 検討課題の中間報告について [資料 WS-21-2-10、11]

(1) 課題番号 WS09-07 「放射線透過試験(RT)方法への全面的な JIS の引用」

【概要】: 火技解釈の RT 方法は、ASME、旧 RT 関連 JIS 及び RT 関連 JIS を適宜用いて、独自の規定に基づいた RT 方法としているが、現行 JIS の資格、RT 方法と乖離が大きくなっており、現行の JIS に基づいた RT 方法に変更する検討の中間報告があった。
コメント等があれば、12月28日までに、事務局に連絡することとされた。

(2) 課題番号 WS09-08 「放射線透過試験(RT)の判定基準の見直し」

【概要】: 火技解釈の RT の判定基準は、ASME、旧 RT 関連 JIS 及び RT 関連 JIS を適宜用いて独自に規定しているが、現行 JIS の判定基準との乖離が大きくなっており、現行の JIS に変更する検討の中間報告があった。
判定基準の見直しであり、技術的な議論を充分にして頂きたいとのコメントがあった。その他のコメント等があれば、12月28日までに、事務局に連絡することとされた。

5-8 その他

5-8-1 次回スケジュールについて

次回部会の日時は 平成22年6月30日(水) 13:30~

となった。場所等は事務局から追って連絡することとされた。

5-8-2 書類の配布時期とフォーマット等

(1) 会議資料の配布時期は、会議 2 週間前を目安として各委員にメールすることを検討することとされた。

(2) 追加の説明資料を作成した場合、各委員にメールすることとされた。

(課題番号 WS07-03)

以上